

プログラム詳細

①教育講演 10:00～11:30

テーマ「地域包括ケアシステムに期待される作業療法士を目指して」

講師:紅野 勉(こうの つとむ)氏

略歴

経歴:昭和63年 愛媛十全医療学院作業療法学科卒業

同年 社会福祉法人 農協共済 中伊豆リハビリテーションセンター入職

平成 7年 同 退職

福井県今庄町(現在の南越前町)に入職

(今庄老人保健施設、今庄診療所)

平成17年 同 退職

平成18年 医療法人池慶会池端病院 入職

現在に至る

資格:作業療法士、生活行為向上マネジメント指導者(日本作業療法士協会)

介護支援専門員、福祉用具プランナー、福祉住環境コーディネーター(2級)

所属:医療法人池慶会 池端病院 (いりょうほうじんちけいかい いけばたびょういん)

事務部長 (兼)地域包括ケア推進室長

役職等:福井県作業療法士会:副会長 2013～現在、日本作業療法士協会:生活行為向上マネジメント推

進プロジェクト(班長)2015～2018.3、全国デイ・ケア協会:経営運営委員 2014～現在

②一般演題セッション1 11:40～12:40

第1会場:1階コミュニティーホール	第2会場:2階研修室
1 難病患者への重度障害者意思伝達装置導入に向けた取り組み 盛岡つなぎ温泉病院 八重樫 匠	1 右片麻痺・右半側空間無視症状を呈した脳出血患者に対し、食事動作獲得に向けて右上肢の感覚統合訓練と並行して積極的な歩行訓練を行った症例 盛岡友愛病院 伊藤 真瑠美
2 認知症の既往が無いものの、自宅での転倒に認知機能低下が関連していると推測された事例 岩手県立宮古病院 高橋 右	2 退院支援に難渋した右被殻出血の一事例～環境によってパニックになりやすい事例への介入～ 盛岡つなぎ温泉病院 片島 美香
3 学童野球に関わる指導者・保護者のけが予防の知識調査 岩手医科大学付属病院 佐藤 瞭	3 外出訓練を通じて成功体験を強化し、リハビリに対する意欲向上を目指した症例 東八幡平病院 小林 瑞奈
4 実車評価を行い、気づきを得ることが出来た症例 盛岡医療生活協同組合 川久保病院 田中 利恵	4 右脳幹梗塞を発症した症例に対し両上肢機能訓練を行った事でADLの向上に繋がった症例～更衣動作を目指して～ 盛岡友愛病院 村上 敬
5 いわてリハビリテーションセンターにおける自動車運転再開支援班の活動報告 いわてリハビリテーションセンター 大久保 訓	5 回復過程に合わせたリハビリにより、活動に限局せず、参加を目指すことでできた症例 東八幡平病院 大石 和幸

(昼休み:12:40～13:40)

- ・会場周辺に飲食施設が少ないため昼食を持参して頂くことをお勧め致します。
- ・会場内での飲食は不可となっております。飲食される場合は当日ご案内する飲食可能スペースをご利用下さい。
- ・同時時間帯、1階サークル室において卓球バレー交流会も開催致します。

一般演題セッション2 13:40～14:30

1階コミュニティーホール	
1 一般乳児を対象とした地域保健事業への作業療法への介入 岩手リハビリテーション学院 田中 弘美	3 全指切断に対し、作業用仮義手を作成し、QOL改善につながった経験 岩手医科大学付属病院 角原 綾奈
2 母指CM関節掌側外転保持装具使用下で集中訓練を行い調理動作が可能となった症例 いわてリハビリテーションセンター 千葉 聖矢	4 日本版感覚プロファイルを用いて感覚の偏りを調査した1例 岩手県立療育センター 村松 海輝

③町民公開講座 14:40～16:10

テーマ「災害ボランティアの24年から考える」

講師 渥美 公秀(あつみともひで)氏

略歴

1961年大阪府生まれ。大阪大学人間科学部卒業。フルブライト奨学金によりミシガン大学大学院に留学、博士号(Ph.D.心理学)取得。大阪大学大学院人間科学研究科博士課程単位取得。神戸大学文学部助教授、大阪大学大学院人間科学研究科助教授などを経て、2010年大阪大学大学院人間科学研究科教授に就任。

自宅のあった西宮市で阪神・淡路大震災に遭い、避難所などでボランティア活動に参加。これをきっかけに災害ボランティア活動の研究と実践を続けている。

現在、認定特定非営利活動法人日本災害救援ボランティアネットワーク理事長のほか、日本グループ・ダイナミクス学会、日本災害復興学会、日本自然災害学会などの役員を務め、多くの社会活動を行っている。

○主な著書

「災害ボランティア」(弘文堂 単著)

「ボランティアの知」(大阪大学出版会 単著)

「地震イツモノート」(木楽舎・ポプラ社 監修)

「防災・減災の人間科学」(新曜社 編著)

「災害ボランティア論入門」(弘文堂 編著)